

富田林市埋蔵文化財調査報告37

平成16年度

富田林市内遺跡群発掘調査報告書

2005・3

富田林市教育委員会

富田林市埋蔵文化財調査報告37 正誤表

頁等	行等	誤	正
P4	図4内	棚列	柵列
P9	所在地	常磐町	常盤町
P9	錦織遺跡所在地(ふりがな)	にしこおり	にしきおり
P9	錦織神社境内遺跡北緯	34° 49' 51"	34° 29' 31"
P9	錦織神社境内遺跡東経	135° 58' 87"	135° 35' 29"
P9	錦織遺跡北緯	34° 48' 71"	34° 29' 13"
P9	錦織遺跡東経	135° 58' 91"	135° 35' 20"

はじめに

富田林市は大阪府の南東部に位置する自然環境と歴史的遺産に恵まれた南河内地域の中心として栄えたところで、国指定史跡の新堂廃寺跡・オガンジ池瓦窯跡・お亀石古墳、大阪府下唯一の国重要伝統的建造物群保存地区である富田林寺内町をはじめとして多くの文化財があります。

富田林市教育委員会では、このような先人が残した貴重な文化財の保護に努め、地中に眠る遺跡についても発掘調査を継続的に実施してまいりました。本報告書は、平成16年度に発掘調査を実施したもののうち、国の補助を受けて個人住宅の建築工事に先立つ発掘調査についてその成果をまとめたものです。調査地は『日本書紀』にみられる百濟郷にあたり、渡来系氏族との関係をうかがわせる地域です。本書がわずかでも地域の歴史を解明する一助になれば幸いです。

本年度の調査につきましては、建築主ならびに関係者の皆様をはじめ、調査地周辺の皆様に多くのご協力を賜りました。ここに厚く感謝申し上げます。また、今後とも本市の文化財保護行政に対するご理解とご協力のほどを、よろしくお願い申し上げます。

平成17年 3月

富田林市教育委員会
教育長 堂 山 博 也

例 言

1. 本書は、富田林市教育委員会が、平成16年度の国庫補助事業として実施した緊急発掘調査の概要報告書である。
2. 調査は、富田林市教育委員会生涯学習部文化財課 中辻亘・藤田徹也が担当した。
3. 本書で使用した方位と標高は、すべて磁北と東京湾標準潮位で表示した。
4. 現地の土色は、『新版標準土色帖 1999年版』を参考にしている。
5. 遺跡の調査記録類および出土遺物は、富田林市立埋蔵文化財センターにおいて保管している。
6. 本書の執筆・編集は、中辻が行った。

本文目次

はじめに

例言

1. 層序	2
2. 遺構	2
3. まとめ	8
報告書抄録	9

挿図目次

図1 錦織遺跡発掘調査地位置図	1
図2 調査区位置図	2
図3 包含層出土遺物	3
図4 遺構平面図	4
図5 落ち込み1(1~8)、ピット51(10)・64(11)・82(9)出土遺物	5
図6 調査地周辺地籍図	8

表目次

表1 ピット一覧表(1)	6
表2 ピット一覧表(2)	7

図版目次

図版1 (上) 錦織神社境内遺跡 調査区南壁断面 北から	
(下) 錦織遺跡 調査地から東方を望む 西から	
図版2 (上) 錦織遺跡 調査区南壁断面包含層遺物出土状況 北から	
(下) 錦織遺跡 落ち込み1 獣骨および土師器出土状況 南から	
図版3 (上) 錦織遺跡 調査区南部西壁断面 東から	
(下) 錦織遺跡 調査区南部西壁断面 東から	
図版4 (上) 錦織遺跡 調査区北東部断面 南西から	
(下) 錦織遺跡 調査区南部東壁断面 西から	
図版5 (上) 錦織遺跡 ピット89 立石出土状況 北から	
(下) 錦織遺跡 ピット86 立石出土状況 西から	
図版6 (上) 錦織遺跡 ピット51 半掘状況 南から	
(下) 錦織遺跡 ピット51 瓦質皿出土状況 北から	
図版7 (上) 錦織遺跡 調査区西半部近景 南から	
(下) 錦織遺跡 調査区東半部近景 南西から	
図版8 錦織遺跡 調査区全景 西から	

錦織遺跡

錦織遺跡は、大阪府富田林市の南部に広がる縄文時代から中世にかけての複合遺跡で、石川左岸の河岸段丘上に立地しており、中央を旧国道170号線が南北に走っている。1950年頃から縄文土器が採集されていたが、1967年に縄文時代前期に属する北白川下層式の土器が出土したことで、市域で最初に発見された縄文時代の遺跡として周知されてきた。その後、大阪府教育委員会や本市教育委員会の調査で弥生時代の土壙墓、古墳時代の円筒埴輪棺、奈良時代から中世にかけての掘立柱建物跡が検出された。特に1988年の本市教育委員会の調査では、奈良時代の掘立柱建物跡とともに博や緑釉の円面硯が出土しており、遺跡南方に所在する錦織廃寺や南西方に所在する細井廃寺といった古代寺院との関係、さらには『日本書紀』にみられる「百濟郷」との関係が注目される。

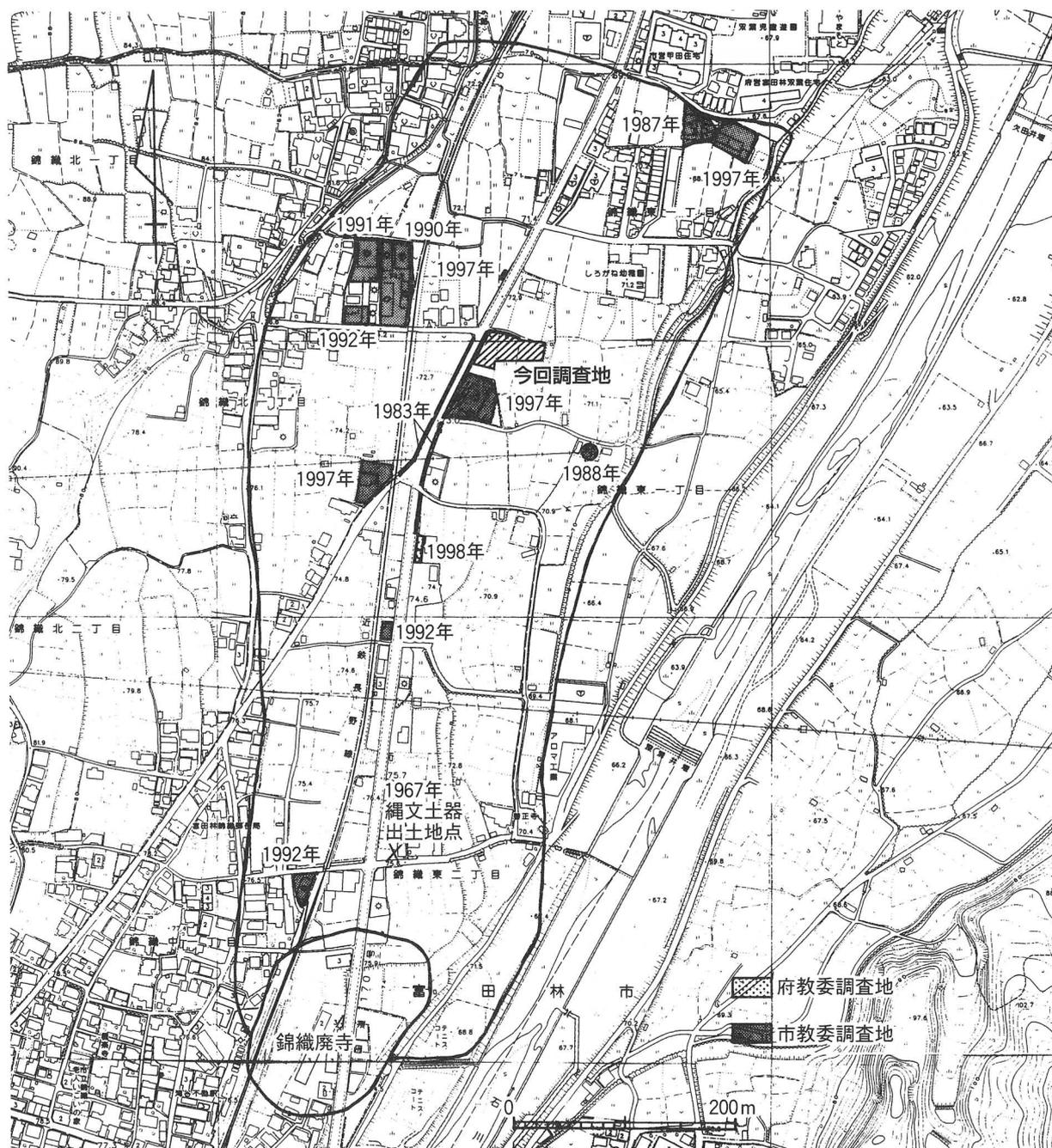


図1 錦織遺跡発掘調査地位置図

調査地：富田林市錦織東一丁目539-5、-6、540-2、-3

調査面積：約200m²

調査地は、旧国道170号線に面した遺跡の北部に位置する。現況は水田である。

平成16年11月24日に、埋蔵文化財発掘届出書が富田林市教育委員会文化財課に提出され、木造2階建の個人住宅の建設が計画されており、協議の結果、建物部分において地盤改良工事が実施されることから同部分について発掘調査を実施することとなった。

調査は、平成17年1月11日から同年3月31日まで行った。

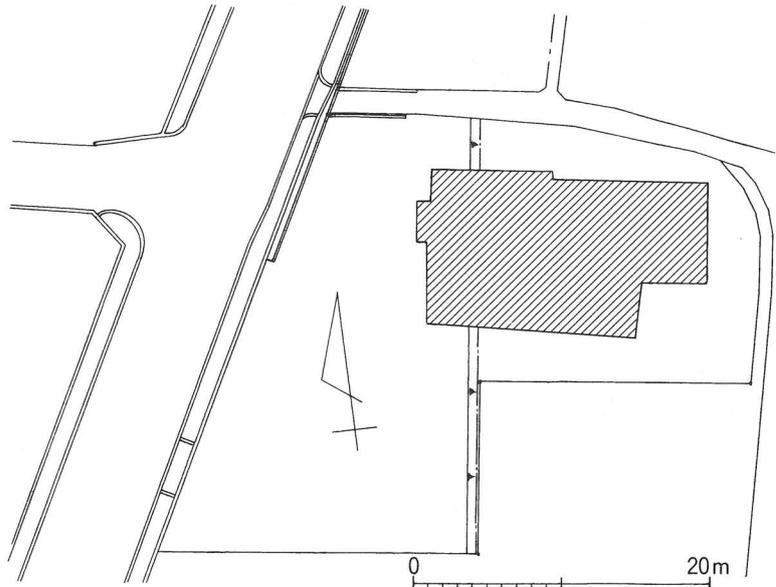


図2 調査区位置図

1. 層序

基本的な層序は、上から順に第1層・耕土（20cm）、第2層・床土（5cm）、第3層・灰黄色（10YR 5/4）土（8cm）、第4層・黄灰色（10YR 5/3）弱粘質土（5cm）、第5層・濁灰黄色（10YR 5/2）弱粘質土（7cm）、第6層・濁黄灰色（2.5 YR 5/4）細砂混じり粘質土（10cm）、第7層・濁黄灰色（10YR 5/4）粘質土（8cm）、第8層・灰褐色（2.5Y 5/2）土（8cm）、第9層・暗灰褐色（10YR 3/2）弱粘質土（10cm）、第10層・暗灰褐色（10YR 3/2）粘質土（15～30cm）が堆積する。ただし、調査区の西端部では第10層は認められない。また、東部では厚く堆積する。遺構面は2面あり、第1面は第9層上面の標高約70.9mで認められる。第2面は第10層下の地山面で、標高約70.7mにあたる。地山は、1cm前後の礫を含む濁灰黄褐色（10YR 3/3）粘質土で構成されているが、東壁断面では20cm下で黒褐色粘土のブロックが認められ、さらに下層には砂礫層の堆積が認められる。

2. 遺構

落ち込み2、土坑3、ピット93を検出した。検出したピットには掘立柱建物1棟、柵列2列を含む。以下、各々遺構ごとに記述し、ピットについては表1・2にまとめた。

落ち込み1

調査区西半部から南部にかけて検出した。調査区の南西部の大半を占めている。一見溝状を呈するが、深さも一定ではなく遺構内にはさらに深く不整形な落ち込みが認められる。西端部は比較的浅く0.06m、西半部では0.09m、南部では0.25～0.40mの深さを測り、南東方向に深くなっている。

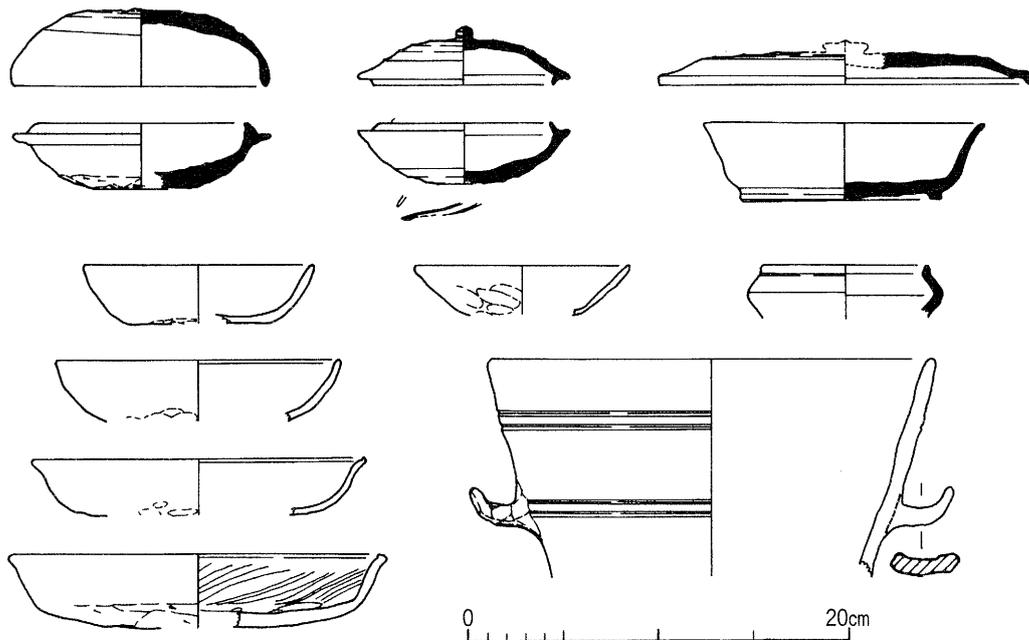


図3 包含層出土遺物

埋土は上層が黒褐色（10YR 3/2）粘質土で、下層は砂礫が混じる黒褐色（10YR 3/2）粘質土である。遺物は弥生土器、土師器、須恵器、製塩土器、円筒埴輪、サヌカイト、馬のものと思われる骨が出土している。

落ち込み2

調査区北東隅で検出した。遺構の南西部のみを検出したにすぎず、大半は調査区外に広がるものと思われる。東西方向は約5.3m分を、南北方向は約15m分を検出した。深さは0.35～0.40mを測る。埋土は砂礫が混じる黒褐色（10YR 3/2）粘質土である。遺物は須恵器と円筒埴輪が出土している。

土坑1

調査区北西隅で検出した。大半が調査区外に広がるため、正確な規模は不明である。西壁断面での深さは0.15mを測る。埋土は黒褐色（10YR 3/2）粘質土である。遺物は出土しなかった。

土坑2

調査区中央部北端で検出した。遺構の北半は調査区外に広がるため、正確な規模は不明である。東西方向約1.95m、南北方向約0.6m分を検出した。深さは0.15mを測る。埋土は黒褐色（10YR 3/2）粘質土である。遺物は須恵器が出土している。

土坑3

調査区南東隅で東西方向約1.0m、南北方向約0.55m分を検出した。東半は調査区外のため、正確な規模は不明である。深さは0.3mを測る。埋土は黒褐色（10YR 3/2）粘質土である。遺物は弥生

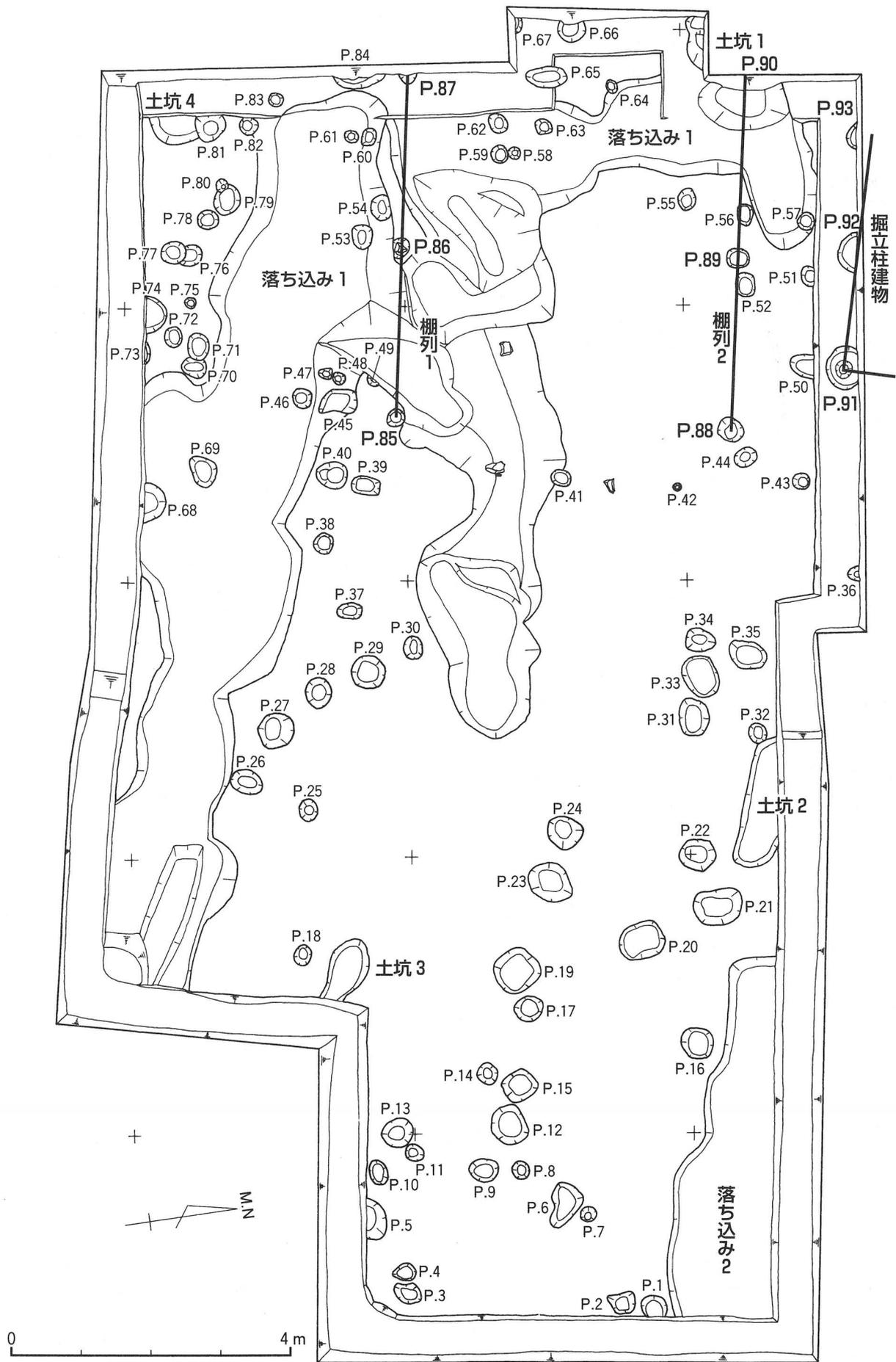


図4 遺構平面図

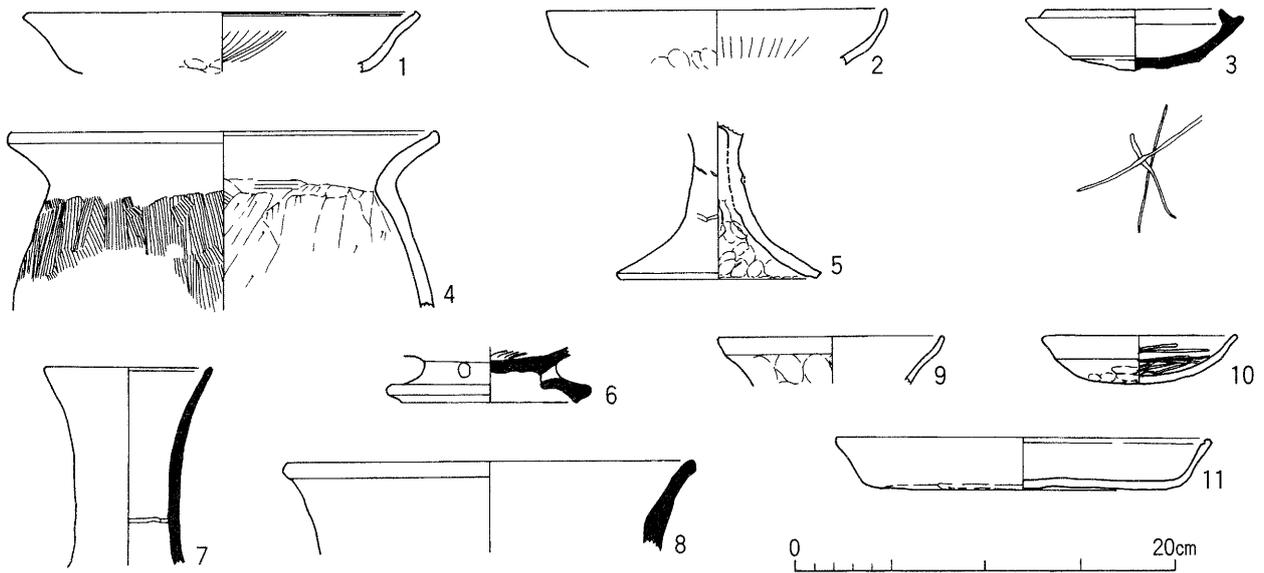


図5 落ち込み1(1~8)、ピット51(10)・64(11)・82(9)出土遺物

土器、土師器、須恵器が出土している。

ピット

ピットは全体で93検出した。そのうち、ピット91~93を掘立柱建物に伴う柱穴と判断した。また、ピット85~87および88~90を柵列に伴う柱穴と判断し、後述する。各ピットの規模・形状および出土遺物についての詳細は、表1・2を参照されたい。

掘立柱建物

調査区北西隅で1棟分を検出した。建物の南東部を検出したにすぎず、東西2間以上と思われる。大半が調査区外に当たるため正確な規模は不明である。地山から掘り込まれた柱穴であることが北壁断面で確認できる。柱穴は検出分からみて円形を呈すると思われる、建物南東隅の柱穴であるピット88の直径は約0.6mを測る。深さは0.54~0.70mを測る。柱間は約1.7mを測り、黒褐色(10YR 3/2)粘質土および暗褐色(10YR 3/3)粘質土の埋土である。遺物は出土していない。

柵列1

調査区西端、落ち込み1とほぼ重複して検出した東西方向の柵列である。構成する柱穴はピット85~87で、さらに西側調査区外に延びるとと思われる。柱穴は円形を呈し、直径約0.3m、深さ0.1~0.5mを測る。第9層上面から掘り込まれた遺構である。柱間は約2.5mを測る。埋土は暗灰黄色(2.5Y 4/2)土である。遺物はピット86から土師器が出土している。また、柱穴中央には長さ約0.4mのラグビーボール状の川原石が立った状態で検出されている。

柵列2

調査区北西部、柵列1から北4.8m地点で検出した。柵列1と同一方向である。構成する柱穴はピット88~90で、さらに西側調査区外に延びるとと思われる。柱穴は円形を呈し、直径約0.4m、深さ0.22~0.54mを測る。第9層上面から掘り込まれた遺構である。柱間は約2.5mを測る。埋土は暗

種別	形状	規模 (m)	深さ (m)	土色・土質	遺物
ピット1	(円形)	(0.40×0.35)	(0.38)	黒褐色 (10YR 2/3) 粘質土	
ピット2	隅丸方形	0.36×0.32	0.39	黒褐色 (10YR 3/2) 弱粘質土	
ピット3	楕円形	0.42×0.30	0.31	黒褐色 (10YR 3/2) 粘質土	土師器
ピット4	楕円形	0.35×0.28	0.08	黒褐色 (10YR 3/2) 弱粘質土	
ピット5	(楕円形)	(0.60×0.30)	(0.40)	黒褐色 (10YR 3/2) 弱粘質土	土師器
ピット6	不整形	0.68×0.48	0.22	黒褐色 (10YR 3/2) 弱粘質土	
ピット7	円形	0.20×0.20	0.29	暗褐色 (10YR 3/3) 弱粘質土	
ピット8	円形	0.26×0.26	0.30	黒褐色 (10YR 3/2) 弱粘質土	
ピット9	楕円形	0.41×0.34	0.14	黒褐色 (10YR 3/2) 弱粘質土	サヌカイト
ピット10	楕円形	0.40×0.24	0.12	暗褐色 (10YR 3/3) 弱粘質土	土師器
ピット11	円形	0.26×0.26	0.28	黒褐色 (10YR 3/2) 粘質土	
ピット12	楕円形	0.58×0.47	0.28	暗褐色 (10YR 3/3) 粘質土	
ピット13	円形	0.48×0.44	0.39	黒褐色 (10YR 3/2) 粘質土	土師器
ピット14	円形	0.35×0.30	0.44	灰黄褐色 (10YR 4/2) 弱粘質土	
ピット15	隅丸方形	0.50×0.40	0.18	黒褐色 (10YR 3/2) 粘質土	土師器
ピット16	円形	0.50×0.48	0.30	黒褐色 (10YR 3/2) 粘質土	
ピット17	円形	0.42×0.40	0.23	灰黄褐色 (10YR 4/2) 弱粘質土	
ピット18	円形	0.30×0.30	0.33	灰黄褐色 (10YR 4/2) 弱粘質土	土師器
ピット19	隅丸方形	0.65×0.62	0.22	黒褐色 (10YR 3/2) 弱粘質土	土師器
ピット20	楕円形	0.70×0.55	0.22	にぶい黄褐色 (10YR 4/3) 弱粘質土	
ピット21	楕円形	0.70×0.50	0.20	黒褐色 (10YR 2/3) 弱粘質土	土製品
ピット22	円形	0.52×0.48	0.25	黒褐色 (10YR 3/2) 粘質土	
ピット23	楕円形	0.70×0.52	0.40	黒褐色 (10YR 3/2) 弱粘質土	須恵器
ピット24	円形	0.50×0.50	0.35	黒褐色 (10YR 3/2) 弱粘質土	
ピット25	円形	0.32×0.32	0.23	黒褐色 (10YR 2/3) 粘質土	製塩土器・土師器
ピット26	楕円形	0.50×0.38	0.31	黒褐色 (10YR 3/2) 粘質土	
ピット27	円形	0.54×0.52	0.28	黒褐色 (10YR 3/2) 弱粘質土	
ピット28	楕円形	0.50×0.40	0.08	灰黄褐色 (10YR 4/2) 弱粘質土	土師器
ピット29	円形	0.50×0.50	0.37	黒褐色 (10YR 3/2) 弱粘質土	
ピット30	楕円形	0.35×0.28	0.22	暗褐色 (10YR 3/3) 弱粘質土	
ピット31	楕円形	0.60×0.42	0.38	灰黄褐色 (10YR 4/2) 弱粘質土	
ピット32	円形	0.30×0.28	0.16	にぶい黄褐色 (10YR 4/3) 弱粘質土	土師器
ピット33	楕円形	0.60×0.52	0.30	黒褐色 (10YR 3/2) 粘質土	土師器
ピット34	楕円形	0.45×0.32	0.25	灰黄褐色 (10YR 4/2) 土	
ピット35	楕円形	0.58×0.40	0.25	灰黄褐色 (10YR 4/2) 粘質土	
ピット36	円形	0.20×0.15	0.22	暗褐色 (10YR 3/3) 粘質土	
ピット37	楕円形	0.38×0.26	0.09	暗褐色 (10YR 3/3) 弱粘質土	
ピット38	円形	0.32×0.30	0.23	にぶい黄褐色 (10YR 4/3) 土	製塩土器・土師器
ピット39	楕円形	0.42×0.28	0.18	暗褐色 (10YR 3/3) 弱粘質土	土師器・黒色土器
ピット40	楕円形	0.50×0.30	0.28	黒褐色 (10YR 3/2) 粘質土	土師器
ピット41	円形	0.20×0.20	0.18	黒褐色 (10YR 3/2) 弱粘質土	土師器・瓦器
ピット42	円形	0.30×0.25	0.24	黒褐色 (10YR 3/2) 弱粘質土	土師器
ピット43	円形	0.30×0.26	0.16	黒褐色 (10YR 3/2) 粘質土	
ピット44	楕円形	0.38×0.28	0.34	黒褐色 (10YR 3/2) 粘質土	土師器
ピット45	不整形	0.58×0.34	0.40	暗褐色 (10YR 3/3) 土	土師器
ピット46	円形	0.30×0.30	0.06	暗褐色 (10YR 3/3) 土	
ピット47	円形	0.22×0.20	0.15	暗褐色 (10YR 3/3) 土	

表1 ピット一覧表 (1)

種別	形状	規模 (m)	深さ (m)	土色・土質	遺物
ピット48	円形	0.20×0.20	0.37	黒褐色 (10YR 3/2) 弱粘質土	土師器・須恵器
ピット49	円形	0.20×0.20	0.08	黒褐色 (10YR 3/2) 粘質土	
ピット50	(楕円形)	(0.38×0.38)	(0.24)	黒褐色 (2.5Y 3/2) 弱粘質土	土師器
ピット51	(楕円形)	(0.30×0.20)	(0.20)	黒褐色 (2.5Y 3/2) 弱粘質土	土師器・瓦質土器
ピット52	(楕円形)	(0.34×0.28)	(0.18)	黒褐色 (10YR 3/2) 粘質土	
ピット53	楕円形	0.36×0.28	0.35	にぶい黄褐色 (10YR 5/3) 土	土師器・須恵器
ピット54	楕円形	0.36×0.28	0.40	灰黄褐色 (10YR 4/2) 土	土師器・須恵器
ピット55	楕円形	0.32×0.25	0.13	黒褐色 (10YR 3/2) 弱粘質土	土師器
ピット56	楕円形	0.32×0.25	0.25	灰黄褐色 (10YR 4/2) 土	サヌカイト・製塩土器・土師器・瓦器
ピット57	楕円形	0.28×0.20	0.22	灰黄褐色 (10YR 4/2) 土	製塩土器・土師器
ピット58	円形	0.18×0.18	0.15	暗褐色 (10YR3/4) 弱粘質土	製塩土器・土師器
ピット59	円形	0.28×0.26	0.20	にぶい黄褐色 (10YR 4/3) 弱粘質土	土師器
ピット60	楕円形	0.25×0.20	0.28	灰黄褐色 (10YR 4/2) 土	土師器・須恵器
ピット61	円形	0.20×0.20	0.21	黒褐色 (10YR 3/2) 土	土師器・黒色土器
ピット62	円形	0.30×0.28	0.28	にぶい黄褐色 (10YR 4/3) 弱粘質土	土師器・須恵器
ピット63	円形	0.28×0.25	0.13	暗褐色 (10YR3/4) 弱粘質土	
ピット64	円形	0.18×0.18	0.21	暗褐色 (10YR 3/3) 粘質土	土師器
ピット65	楕円形	0.60×0.32	0.41	暗褐色 (10YR 3/3) 土	土師器・須恵器
ピット66	(円形)	(0.42×0.30)	(0.32)	暗褐色 (10YR 3/3) 粘質土	
ピット67	(円形)	(0.22×0.12)	(0.18)	暗オリーブ褐色 (2.5Y 3/3) 弱粘質土	
ピット68	(楕円形)	(0.60×0.30)	(0.38)	黒褐色 (10YR 3/2) 弱粘質土	土師器
ピット69	楕円形	0.50×0.40	0.39	灰黄褐色 (10YR 4/2) 土	製塩土器・土師器・須恵器・黒色土器
ピット70	楕円形	0.40×0.30	0.11	黒褐色 (10YR 3/2) 弱粘質土	製塩土器・土師器・黒色土器
ピット71	楕円形	0.38×0.32	0.31	黒褐色 (10YR 3/2) 弱粘質土	製塩土器・土師器・須恵器
ピット72	円形	0.32×0.28	0.15	黒褐色 (10YR 3/2) 弱粘質土	
ピット73	円形	0.30×0.27	0.13	灰黄褐色 (10YR 4/2) 土	製塩土器
ピット74	(円形)	(0.52×0.32)	(0.29)	にぶい黄褐色 (10YR 4/3) 土	土師器
ピット75	円形	0.18×0.18	0.26	黒褐色 (10YR 3/2) 弱粘質土	
ピット76	円形	0.32×0.30	0.22	黒褐色 (10YR 2/3) 弱粘質土	土師器
ピット77	円形	0.35×0.35	0.23	黒褐色 (10YR 2/3) 弱粘質土	製塩土器・土師器
ピット78	円形	0.32×0.30	0.22	暗オリーブ褐色 (2.5Y 3/3) 土	土師器・須恵器
ピット79	楕円形	0.46×0.38	0.15	暗オリーブ褐色 (2.5Y 3/3) 土	土師器・黒色土器
ピット80	円形	0.16×0.16	0.21	暗オリーブ褐色 (2.5Y 3/3) 土	
ピット81	(円形)	(0.45×0.38)	(0.18)	灰黄褐色 (10YR 4/2) 土	土師器
ピット82	(円形)	(0.28×0.28)	(0.33)	灰黄褐色 (10YR 4/2) 土	土師器・須恵器
ピット83	円形	0.20×0.20	0.06	灰黄褐色 (10YR 4/2) 土	
ピット84	(楕円形)	(0.80×0.20)	(0.45)	黒褐色 (2.5Y 3/2) 粘質土	
ピット85	円形	0.30×0.25	0.10	暗灰黄色 (2.5Y 4/2) 土	
ピット86	円形	0.30×0.30	0.18	暗灰黄色 (2.5Y 4/2) 土	土師器
ピット87	(円形)	(0.26×0.15)	(0.50)	暗灰黄色 (2.5Y 4/2) 土	
ピット88	円形	0.40×0.35	0.39	暗灰黄色 (2.5Y 4/2) 土	土師器・須恵器
ピット89	楕円形	0.38×0.30	0.22	暗灰黄色 (2.5Y 4/2) 土	土師器・須恵器
ピット90	(円形)	不明	(0.54)	暗灰黄色 (2.5Y 4/2) 土	
ピット91	(円形)	(0.65×0.50)	(0.54)	暗褐色 (10YR 3/3) 粘質土	
ピット92	(円形)	(0.60×0.25)	(0.56)	黒褐色 (10YR 3/2) 粘質土	
ピット93	(円形)	(0.40×0.15)	(0.70)	黒褐色 (10YR 2/3) 粘質土	

表2 ピット一覧表 (2)

灰黄色 (2.5Y 4/2) 土である。遺物はピット86から土師器・須恵器が出土している。また、柱穴中央には長さ約0.25m、厚さ約0.08mの細長い川原石が立った状態で検出されている。

3. まとめ

錦織遺跡は、1967年に縄文時代前期、北白川下層式の深鉢土器が採集されたことで早くから注目され、1983年以降の大阪府教育委員会と本市教育委員会の本格的な発掘調査の機会を得て、しだいにその内容が明らかになってきた。今回の調査地は、錦織遺跡の北部に位置し、周辺は市内の中央を流れる石川西岸の河岸段丘上の水田地帯である。

第8・9・10層中からは弥生土器、土師器、須恵器、黒色土器、瓦器、瓦質土器、韓式系土器、埴輪、製塩土器、サヌカイト、瓦、埴、焼土塊が出土した。検出した遺構には落ち込み、土坑、ピット、掘立柱建物、柵列がある。遺構の所属時期は、奈良時代から中世にかけてのものと推定される。調査地南東方約120m地点の調査では奈良時代の掘立柱建物が検出されており、同時に埴や緑釉の円面硯が出土している。調査区内では落ち込み1から弥生土器、サヌカイト、円筒埴輪を含むものの奈良時代の土師器、須恵器、製塩土器が出土している。また、遺構上面では土師器とともに馬の骨が出土しており、馬の存在を想定されるものとして注目される。製塩土器はピットから出土している。紀淡海峡産のものと北部九州にみられる六連式のものがあり、生産地の違うものが搬入されていることがわかる。また、落ち込み2からは5世紀後半の円筒埴輪が出土している。調査地北方約300mには同時期の川西古墳がかつて存在し、近年の大阪府教育委員会と本市教育委員会の調査で、外形が帆立貝式もしくは造り出し付円墳であった可能性が高いことが確認されている。石川中流域である富田林市内の河岸段丘上には、5世紀後半から6世紀前半の埋没古墳の存在が確認されており、調査地北方の小字に「ムロツカ」、「エコツカ」という古墳名を推測させる地名もみられる。さらに、調査地のすぐ北側には「チヨハイヂ」の小字名がみられ、包含層から出土した同心円タタキ目をもつ須恵器製の埴の存在は、調査地南西方約600メートルに位置する白鳳期の細井廃寺出土品と同タイプであることから、古代寺院との関係を考えさせるものである。

所属時期が明確な中世土器については、14世紀中ごろに比定できるピット51から出土した完形の瓦質皿が唯一のものである。ピット底に据えられた状況で出土しており、建物に伴う地鎮的な埋納の可能性を暗示させるものである。



図6 調査地周辺地籍図

報告書抄録

ふりがな	へいせい16ねんど とんだばやししないいせきぐんはつくつちょうさほうこくしょ							
書名	平成16年度 富田林市内遺跡群発掘調査報告書							
副書名	富田林市埋蔵文化財調査報告							
巻次	37							
シリーズ名								
シリーズ番号								
編著者名	中辻 亘							
編集機関	富田林市教育委員会							
所在地	〒584-8511 大阪府富田林市常磐町1番1号 ☎0721-25-1000							
発行年月日	西暦 2005年3月31日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 ° ' "	東経 ° ' "	調査期間	調査面積 (m ²)	調査原因
		市町村	遺跡番号					
にしこおり 錦織神社 境内遺跡	おおさかふ とんだばやしし 大阪府富田林市 みやこう だちょう 宮甲田町9-46	27214	41	34° 49' 51"	135° 58' 87"	2004.6.14 ～ 2004.6.17	3.0	境内整備 事業に伴 う調査
にしこおり 錦織遺跡	おおさかふ とんだばやしし 大阪府富田林市 にしこおりひがし 錦織東1-539-5、 539-6、540-2、-3	27214	47	34° 48' 71"	135° 58' 91"	2005.1.11 ～ 2005.3.31	200.0	個人住宅 建設に伴 う調査
所収遺物	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
錦織神社 境内遺跡	集落跡	弥生時代～ 中世						
錦織遺跡	集落跡	縄文時代～ 中世	落ち込み・土坑 ピット・掘立柱 建物・柵列		土師器、須恵器、 製塩土器、韓式系 土器、黒色土器、瓦 器、瓦質土器、瓦、 埴輪、サヌカ イト、焼土塊、獣骨			

版 圖

図版1 錦織神社境内遺跡・錦織遺跡

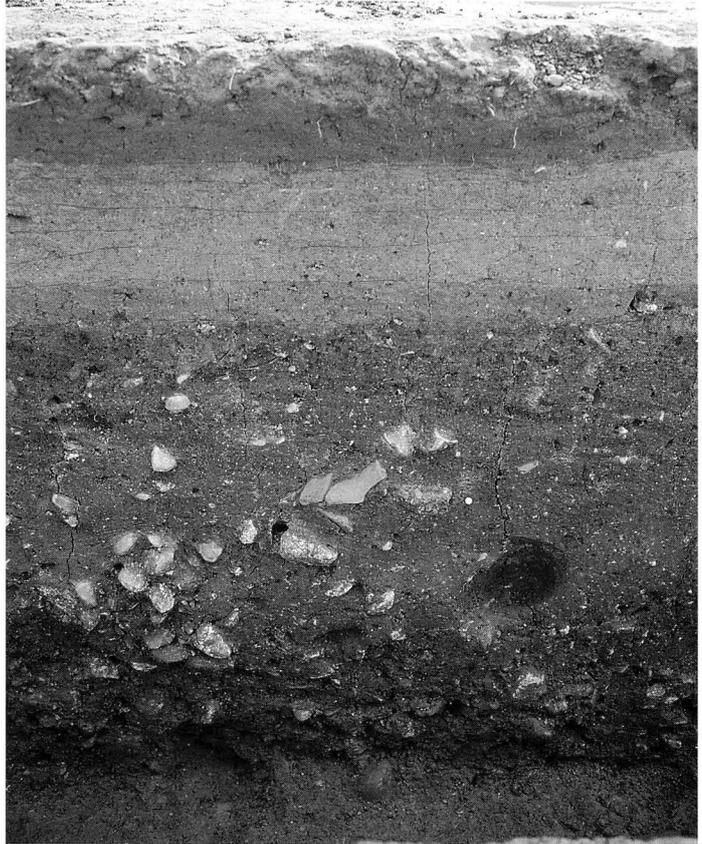


調査区南壁断面 北から



調査地から東方を望む 西から

図版2 錦織遺跡



調査区南壁断面包含層遺物出土状況 北から



落ち込み1 獣骨および土師器出土状況 南から

図版3 錦織遺跡



調査区南部西壁断面 東から



調査区北部西壁断面 東から

図版4 錦織遺跡



調査区北東部断面 南西から



調査区南部東壁断面 西から

図版5 錦織遺跡



ピット89 立石出土状況 北から



ピット86 立石出土状況 西から

図版6 錦織遺跡

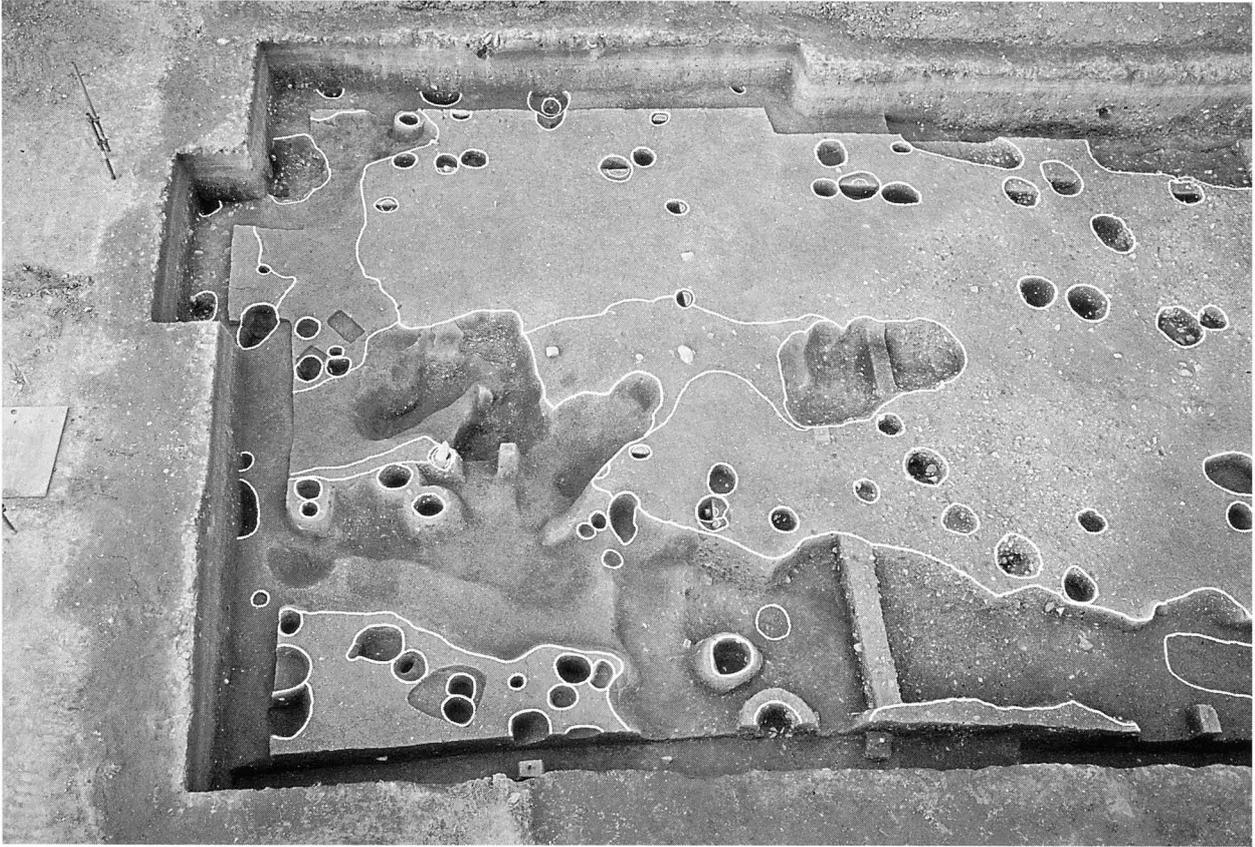


ピット51 半掘状況 南から

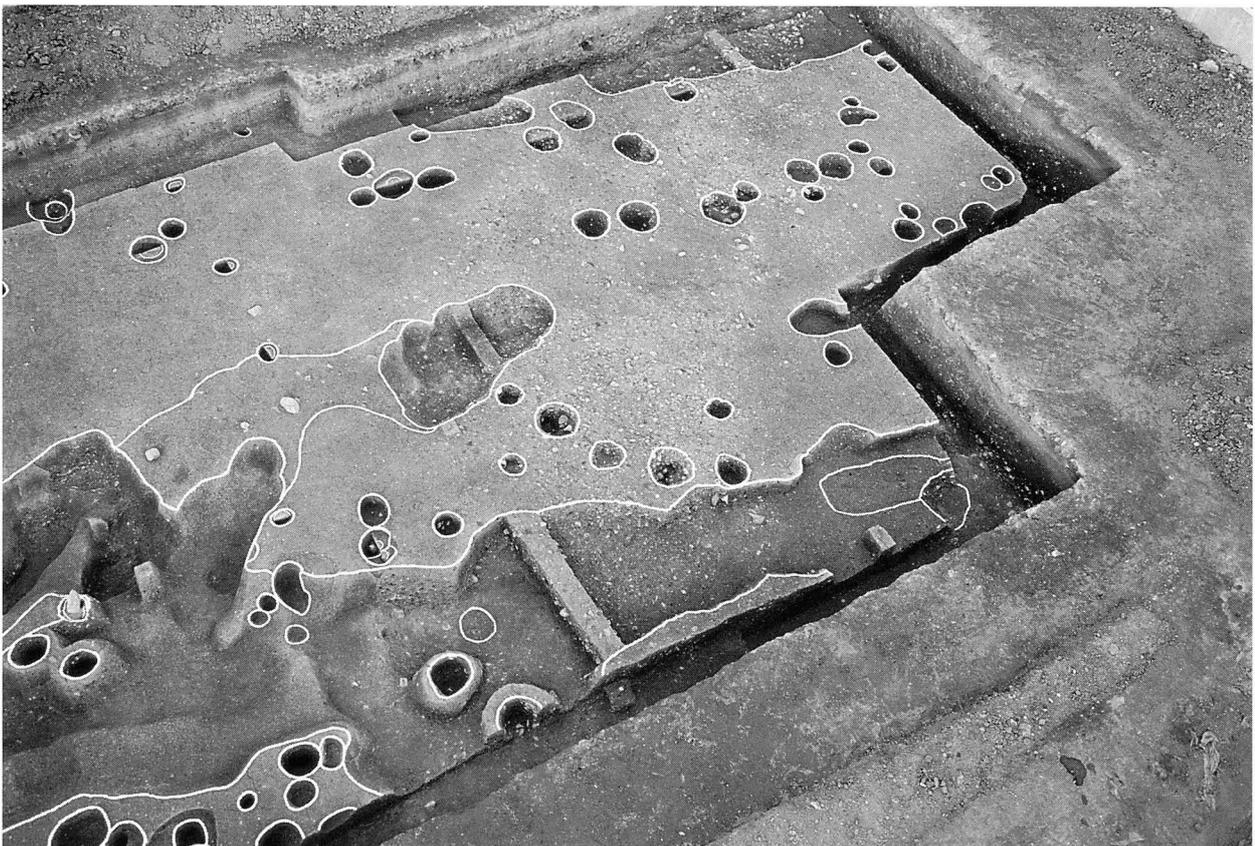


ピット51 瓦質皿出土状況 北から

図版7 錦織遺跡

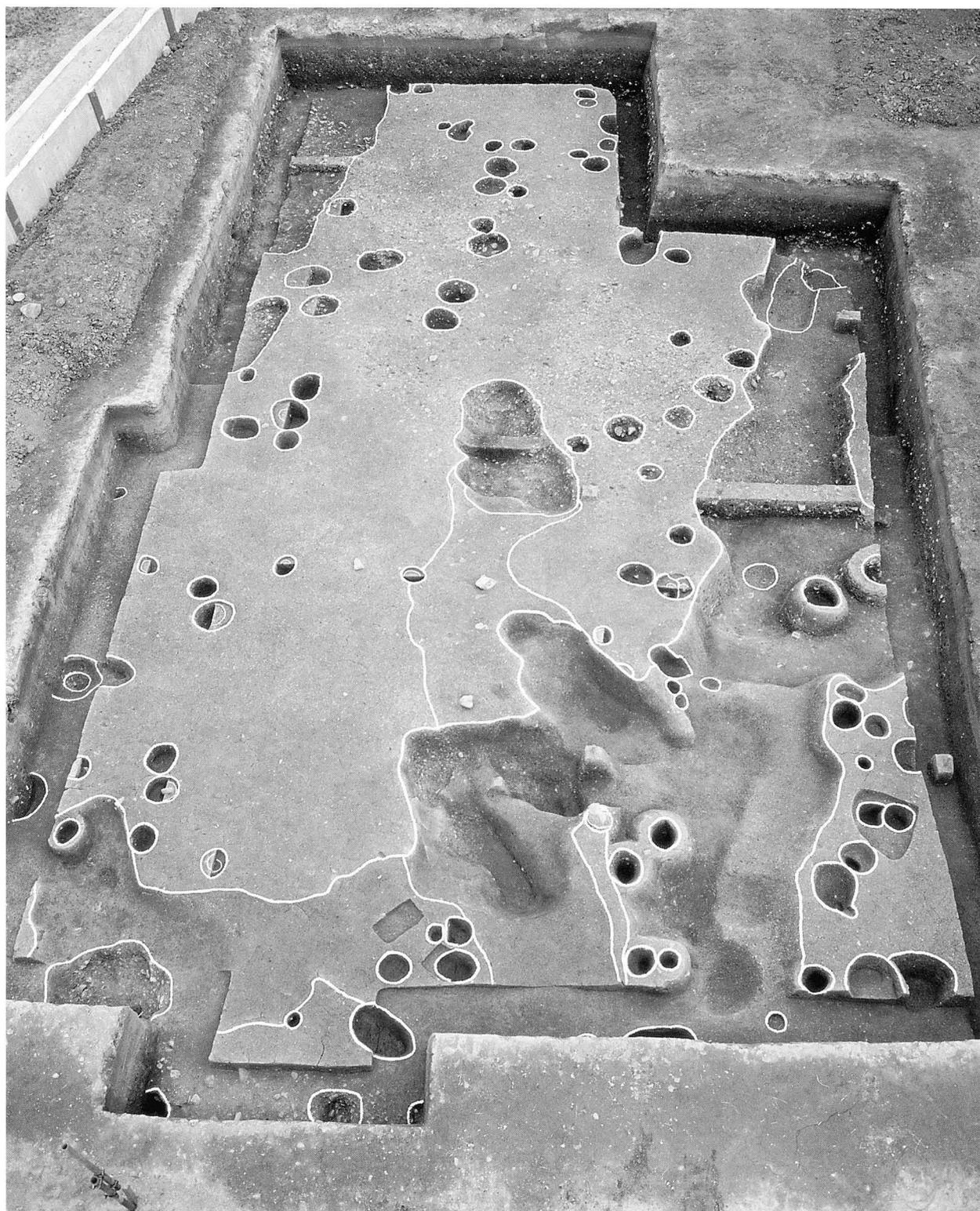


調査区西半部近景 南から



調査区東半部近景 南西から

図版 8 錦織遺跡



調査区全景 西から

富田林市埋蔵文化財調査報告37

発行年月日 2005年3月31日

編集・発行 富田林市教育委員会

住 所 富田林市常盤町1番1号

印 刷 橋本印刷株式会社

